



令和6年3月2日（土）

佐喜浜小学校 創立150周年 記念式典開催

少子化・地方衰退が一気に加速しつつあるここ数年。それ輪をかけたのがコロナ禍。やる気の失せてしまいそうなニュースが多いこの時期にこそ、佐喜浜小創立150周年を盛大に行いたい、そしてそれによって、佐喜浜地域の良さを関係者一同が再認識するとともに、子どもたちにも、ふるさと愛をしっかりと育みたい、そう願って、1年前から企画したこの行事でしたが、お声かけをした方々の多くから賛同と誠意あるご協力を得て、実行委員会が組織され、毎月の会を経て、この日を迎えることができました。

この日は、室戸市長を始め、町内外に住んでおられる佐喜浜の関係者が佐喜浜小体育館においでくださり、記念式典を盛り上げてくれました。また、実行委員長の西本氏を始め、植田市長、小椋副議長、植元記念誌作成委員長も、それぞれが小学校時代を振り返りながら、地元佐喜浜に対する愛や慈しみや憧憬を語ってくれました。また、子どもたちも、児童代表挨拶や歌や合奏を堂々と披露し、式典に花を添えてくれました。

その後行われた三遊亭歌彦記念落語会もたいへん楽しく、みんながさすがプロという話術に引き込まれました。笑いが体育館中に響きわたりました。東洋町が生んだ若手落語家の生き方やこれからの活躍を応援しつつ、佐喜浜の子どもたちの未来も開けていると確信した時間にもなりました。

体育館内には、昔のアルバムが並べられたメモリアルコーナーや郷土の偉人「故朝潮太郎氏」「元プロ野球選手 小松剛氏」由来の品々が飾られたテーブル、そして佐喜浜の子どもたちを見守ってくれているエミリーの紹介コーナーなどが作られていました。壁面には、佐喜浜を知り、学び、未来を創造する「ふるさと創造探求学習」の学習の様子も展示され、佐喜浜小が地域の文化的な核となって存在していることをも示す記念式典となりました。

式典及び記念講演会（落語会）後には、改善センターにて25名ほどが参加した「懇親会」も行われました。どの顔も、150年つないできた小学校を祝う式典を為し終えた満足感に満ちていました。なつかしい話や近況報告や佐喜浜小のこれからについて、話は途切れることはありませんでした。

式典の中で植元記念誌作成委員長が語った「夢で逢いましょう」！考えてみれば、人生そのものが夢なのかもしれませんが、記念誌発行と記念式典開催によって、私たち一人一人の心の中に、それぞれの過去が美しくしかもより鮮明に蘇ってきたこと、そして未来への活力が沸き上がってきたことは確かだと思います。

本式典の開催にあたり、格別のご支援をいただいた室戸市及び室戸市教育委員会、そして佐喜浜の学校関係者、地域の方々、記念誌執筆の方々、本当にどうもありがとうございました。

100周年そして150周年を経て、佐喜浜小の伝統と結束は、さらに大きな力を備えつつあります。これからも、地域と保護者と学校の連携を強めつつ、新しい時代に向かって前進し続ける佐喜浜小を築いていきましょう。今後とも、ご協力どうかよろしくお願いいたします。

佐喜浜小学校長 竹村 和男

